

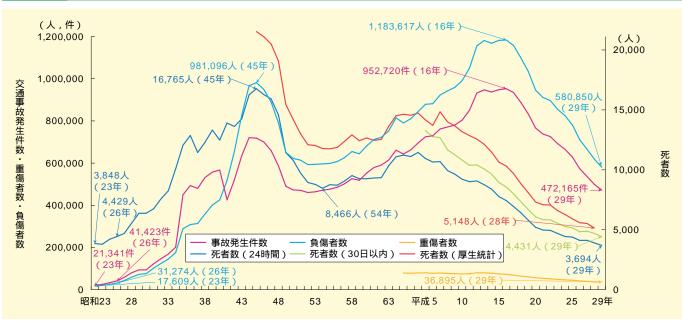
第1部 道路交通

第1章 道路交通事故の動向

1 道路交通事故の長期的推移

交通事故死者数は現行の交通事故統計となった昭和23年以降で最も少なくなった。

第1-1図 道路交通事故による交通事故発生件数,死者数,負傷者数及び重傷者数の推移



- 注 1 警察庁資料による。
 - 2 昭和41年以降の件数には、物損事故を含まない。また、昭和46年までは、沖縄県を含まない。
 - 3 「死者数 (24時間)」とは,交通事故によって,発生から24時間以内に死亡したものをいう。
 - 4 「死者数(30日以内)」とは,交通事故によって,発生から30日以内(交通事故発生日を初日とする。)に死亡したものをいう。
 - 5 「死者数(厚生統計)」は,警察庁が厚生労働省統計資料「人口動態統計」に基づき作成したものであり,当該年に死亡した者のうち原死因が交通事故によるもの(事故発生後1年を超えて死亡した者及び後遺症により死亡した者を除く。)をいう。なお,平成6年までは,自動車事故とされた者を,平成7年以降は,陸上の交通事故とされた者から道路上の交通事故ではないと判断される者を除いた数を計上している。

【交通事故死者数(24時間死者数),交通事故発生件数,負傷者数の推移】

昭和45年に交通事故死者数は,史上最悪の1万6,765人を記録



交通安全対策基本法が45年に制定され,同法に基づく交通安全基本計画を46年以降5年ごとに策定。

昭和54年には交通事故死者数は,8,466人まで減少。その後増勢に転じるが,平成4年を境に再び減少に転じる。



平成16年に交通事故発生件数は,95万2,720件,負傷者数は118万3,617人とそれぞれ史上最悪を記録



平成29年に交通事故死者数は,3,694人となり,現行の交通事故統計となった昭和23年以降で最も少なくなる。交通事故発生件数,負傷者数は13年連続の減少。

2 平成29年中の道路交通事故の状況

概況

```
事故発生件数
              47万2,165件(前年比 2万7,036件,
                                        5.4%)
死傷者数
              58万4.544人(前年比 3万8.213人,
                                        6.1%)
              58万 850人(前年比
うち負傷者数
                             3万8,003人,
                                        6.1%)
うち死者数(24時間)
                 3,694人(前年比
                                 210人,
                                        5.4%)
      (30日以内)
                 4,431人(前年比
                                 267人,
                                        5.7%)
```

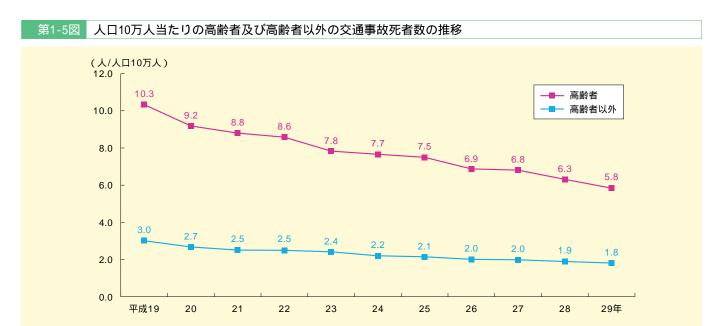
交通事故発生件数及び負傷者数は13年連続で減少し 死者数も減少傾向にあり 現行の交通事故統計となった昭和23年以降で最も少なくなった。

65歳以上の高齢者(以下「高齢者」という。)の人口10万人当たりの交通事故死者数は引き続き減少しているものの,交通事故死者数のうち高齢者は2,020人であり,その占める割合は54.7%と高くなっている(第1-4図及び第1-5図)。

また,致死率については,近年上昇傾向にあるが,この背景には,他の年齢層に比べて致死率が約6倍高い高齢者の人口が増加している一方,その他の年齢層の人口は減少傾向にあることが挙げられる(第1-6図)。

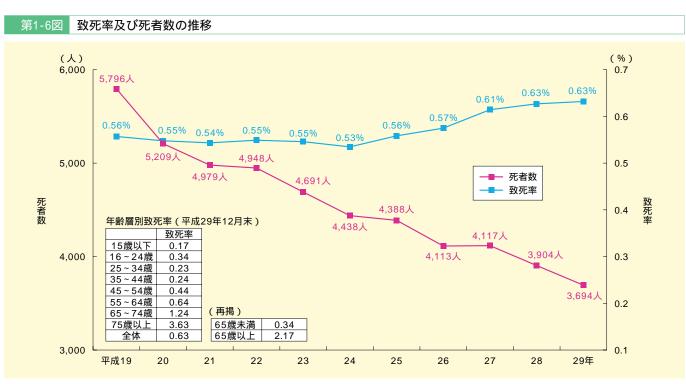


注 警察庁資料による。



主 1 警察庁資料による。

2 算出に用いた人口は,該当年の前年の人口である。「前年の人口」は,総務省統計資料「国勢調査」又は「人口推計」(各年10月1日現在)による。



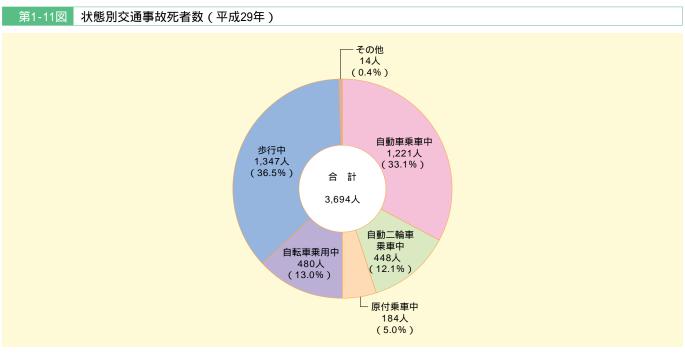
注 1 警察庁資料による。

2 致死率 = 死者数÷死傷者数×100

状態別交通事故死者数及び負傷者数

死者数は,歩行中(1,347人,構成率36.5%)が最も多く,次いで自動車乗車中(1,221人,構成率33.1%)が多くなっており,両者を合わせると全体の69.5%を占めている(第1-11図)。過去10年間の交通事故死者数(人口10万人当たり)を状態別にみると,いずれも減少傾向にあるが,自動二輪車乗車中の交通事故死者は他に比べ余り減っていない(第1-12図)。

負傷者数は,自動車乗車中(37万9,483人,構成率65.3%)が最も多い(第1-13図)。過去10年間の交通事故負傷者数(人口10万人当たり)を状態別にみると,いずれも減少傾向にあるが,歩行中の負傷者は他に比べ余り減っていない(第1-14図)。



注 1 警察庁資料による。

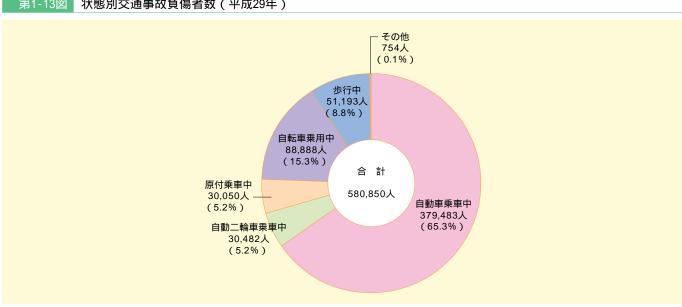
2 ()内は構成率である。

第1-12図 状態別人口10万人当たり交通事故死者数の推移



- 警察庁資料による。ただし、「その他」は省略してある。
 - 算出に用いた人口は、該当年の前年の人口である。「前年の人口」は、総務省統計資料「国勢調査」又は「人口推計」による。 なお、「人口推計」については、毎年総務省が公表している前年10月1日現在におけるものを用いており、以後補正等は行っていない。

状態別交通事故負傷者数(平成29年)



- 注 1 警察庁資料による。
 - 2 ()内は構成率である。

第1-14図 状態別人口10万人当たり交通事故負傷者数の推移 (人/人口10万人) 600.0 自動車乗車中 -自動二輪車乗車中 原付乗車中 -自転車乗用中 步行中 500.0 400.0 300.0 200.0 100.0 0 平成19 21 22 23 24 25 26 27 29年 20 28 平成19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29年 增減率(19年比) 自動車乗車中 502.4 454.0 440.6 438.6 420.1 415.7 400.1 366.7 348.1 324.8 299.0 - 40.5% 自動二輪車乗車中 46.1 41.7 40.2 37.9 35.5 33.5 31.5 28.3 26.0 24.5 24.0 - 47.9% 原付乗車中 68.9 61.0 56.1 53.2 48.0 43.1 38.7 33.6 29.3 25.7 23.7 - 65.6% 70.5 自転車乗用中 134.1 127.1 121.9 118.4 111.8 102.7 94.1 84.8 76.5 70.0 - 47.8%

注 1 警察庁資料による。ただし、「その他」は省略してある。

57.6

55.8

54.1

54.2

歩行中

2 算出に用いた人口は,該当年の前年の人口である。「前年の人口」は,総務省統計資料「国勢調査」又は「人口推計」による。 なお,「人口推計」については,毎年総務省が公表している前年10月1日現在におけるものを用いており,以後補正等は行っていない。

51.3

50.2

47.8

44.9

43.6

40.9

40.3

- 30.0%

年齢層別交通事故死者数及び負傷者数

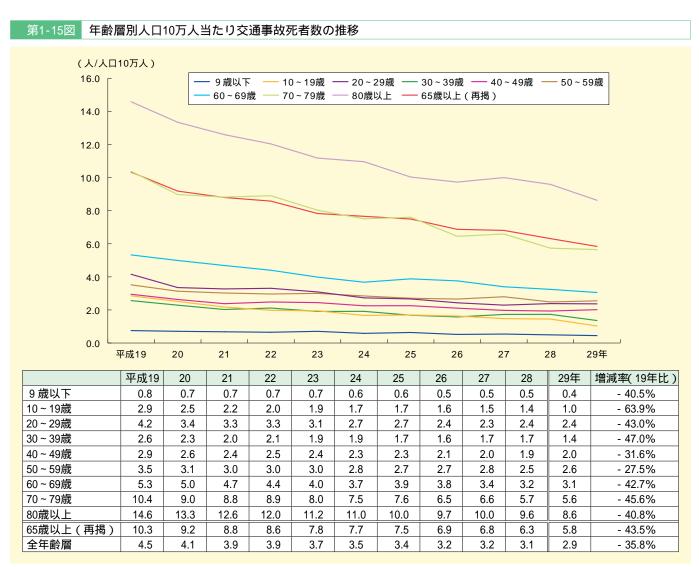
死者数(人口10万人当たり)は,80歳以上(8.6人)が最も多く,次いで70~79歳(5.6人),60~69歳(3.1人)の順で多く(第1-15図),この3つの年齢層の死者数を合わせると全体の60.8%を占めている(第1-16図)。

65歳以上の高齢者の人口10万人当たりの死者数は引き続き減少しているものの(第1 5図),交通事故 死者数に占める高齢者の割合は54.7%を占めている(第1-16図)。

過去10年間の交通事故死者数(人口10万人当たり)を年齢層別にみると,最も減少が緩やかな50~59歳の年齢層についても,平成19年と比較して3割程度の減少となっている(第1-15図)。

負傷者数(人口10万人当たり)は,20~29歳(780.0人)が最も多く,次いで30~39歳(662.1人),40~49歳(589.8人)が多く(第1-17図),この3つの年齢層の負傷者数を合わせると全体の53.7%を占めている(第1-18図).

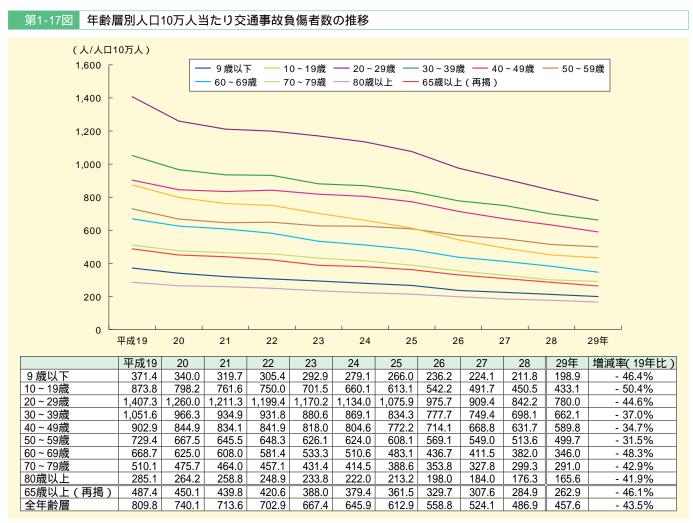
過去10年間の交通事故負傷者数を年齢層別(人口10万人当たり)でみると,50~59歳の年齢層では他に比べ余り減っていない(第1-17図)。



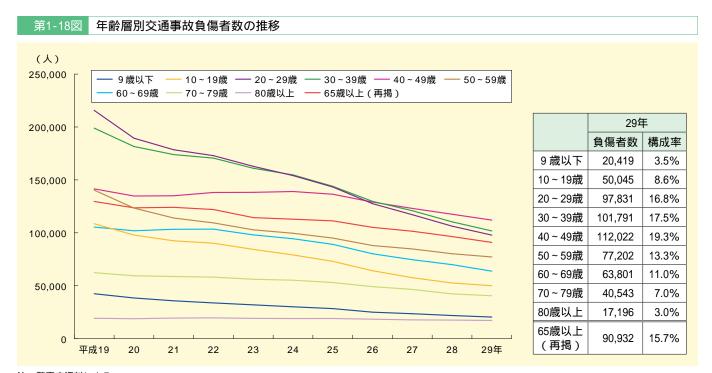
- 注 1 警察庁資料による。
 - 2 算出に用いた人口は,該当年の前年の人口である。「前年の人口」は,総務省統計資料「国勢調査」又は「人口推計」による。 なお,「人口推計」については,毎年総務省が公表している前年10月1日現在におけるものを用いており,以後補正等は行っていない。

年齢層別交通事故死者数の推移 (人) ─ 10~19歳 ─ 20~29歳 ─ 30~39歳 ─ 40~49歳 ─ 50~59歳 - 9歳以下 3,000 80歳以上 — 65歳以上(再掲) 60~69歳 70~79歳 2,800 29年 2,600 死者数 構成率 2,400 9歳以下 1.2% 2,200 10~19歳 119 3.2% 2,000 1,800 20~29歳 297 8.0% 1,600 30~39歳 209 5.7% 1,400 40~49歳 383 10.4% 1.200 50~59歳 10.7% 394 1,000 60~69歳 15.2% 563 800 600 70~79歳 787 21.3% 400 80歳以上 896 24.3% 200 65歳以上 0 2,020 54.7% (再掲) 平成19 20 22 23 28 29年

注 警察庁資料による。



- 注 1 警察庁資料による。
 - 2 算出に用いた人口は,該当年の前年の人口である。「前年の人口」は,総務省統計資料「国勢調査」又は「人口推計」による。 なお,「人口推計」については,毎年総務省が公表している前年10月1日現在におけるものを用いており,以後補正等は行っていない。

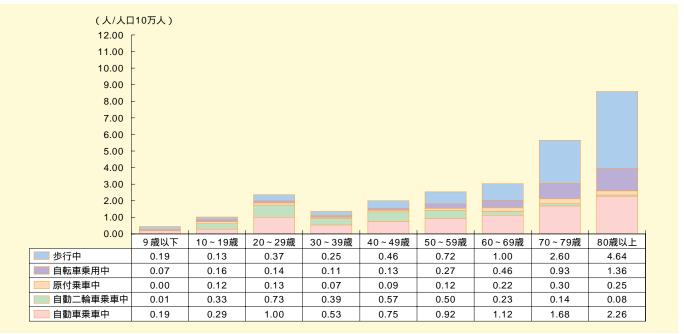


年齢層・状態別人口10万人当たり交通事故死者数

状態別でみた過去10年間の交通事故死者数(人口10万人当たり)の推移は,自動車乗車中,自動二輪車乗車中等のいずれの状態においても減少傾向にある(第1-12図)。

平成29年の歩行中死者(人口10万人当たり)については,高齢者で多く,特に80歳以上(4.64人)では全年齢層(1.06人)の約4倍の水準となっている(第1-12図及び第1-19図)。

第1-19図 年齢層・状態別人口10万人当たり交通事故死者数(平成29年)

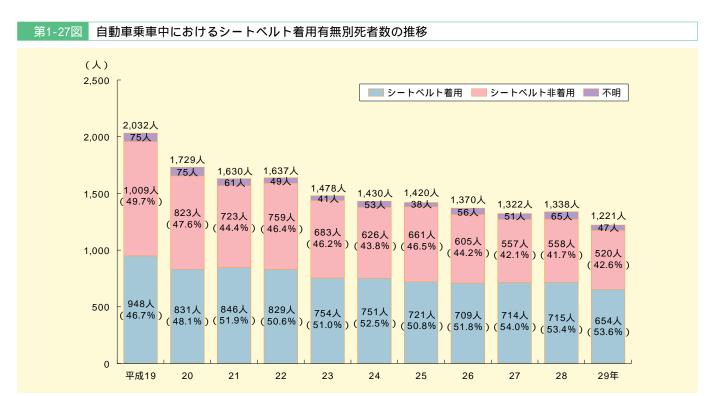


- 注 1 警察庁資料による。
 - 2 算出に用いた人口は,総務省統計資料「人口推計」(平成28年10月1日現在)による。

シートベルト着用の有無別死者数

平成29年中の自動車乗車中の交通事故死者数をシートベルト着用の有無別にみると,非着用は520人で,前年に比べると38人減少した(第1-27図)。

非着用の致死率(死傷者数に占める死者数の割合)は,着用の15.3倍と高くなっている(第1-29図)。



注 1 警察庁資料による。

2 ()内は構成率である。

第1-29図 自動車乗車中におけるシートベルト着用有無別致死率(平成29年)

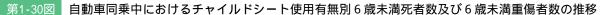


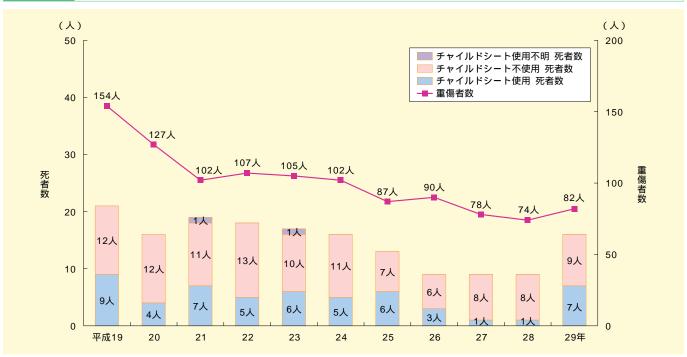
注 1 警察庁資料による。

2 致死率 = 死者数(自動車乗車中・シートベルト着用有無別)÷ 死傷者数(自動者乗車中・シートベルト着用有無別)×100

チャイルドシート使用の有無別死傷者数

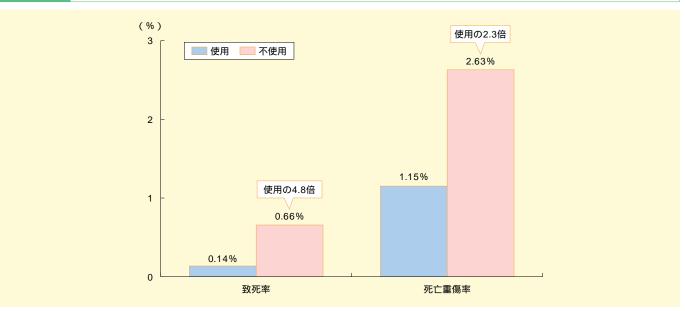
- 6歳未満幼児の自動車同乗中の死者数は,16人(うちチャイルドシート使用は7人。)であり,重傷者数は82人であった(第1-30図)。
- 6歳未満幼児のチャイルドシート使用有無別の死亡重傷率をみると,不使用は使用の2.3倍,致死率をみると,不使用は使用の4.8倍となる(第1-32図)。





注 警察庁資料による。

第1-32図 自動車同乗中におけるチャイルドシート使用有無別6歳未満致死率及び6歳未満死亡重傷率(平成29年)



- 注 1 警察庁資料による。
 - 2 致死率 = 死者数 (6 歳未満自動車同乗中)÷ 死傷者数 (6 歳未満自動車同乗中)×100
 - 3 死亡重傷率 = (死者数(6歳未満自動車同乗中)+重傷者数(6歳未満自動車同乗中))÷死傷者数(6歳未満自動車同乗中)×100